

8 木簡の釈文・内容

(1) 「伊佐郷春米冊一斛 白六石

・「亦米料八百廿」^{〔束カ〕} (144)×16×5 019(2) 「 $\angle$ 」^{〔天カ〕〔大カ〕} 192×25×6 065

(3) 五加 (78)×(33)×2 081

(4) 「 $\square\square\square$ 」 (364)×43×6 081

(1)は、新治郡伊佐(伊讃)郷が、ある時期に負担した春米の量を記したメモ的なものとみられる。(2)は上端と中央やや上よりの二カ所に左右一对の切り込みが入れられている。文字が一行に揃っており、削られた箇所が多いことから、習書とみられる。(3)は上下両端ともに欠損しており、かつ墨書面もほとんどが失われている。(4)も上下両端ともに欠損している。(3)(4)ともに木簡の性格は不明である。



(1)

る。なお、木簡はもう一点出土しているが、墨痕は確認できるが釈読できていない。

なお、釈読にあたっては、国立歴史民俗博物館の平川南氏ほかの指示を得た。

(川井正一)

「うずもれた古文書

—みやこの漆紙文書の世界—展の開催

二〇〇六年二月七日から三月七日まで、飛鳥資料館において冬期企画展「うずもれた古文書—みやこの漆紙文書の世界」が開催された。『平城京漆紙文書』の刊行に因むものである。

平城京跡、長岡京跡などの都城の漆紙文書の実物—一点の他、各地出土の漆紙文書の写真パネル三五点によって、「人を支配する」「田と稲を支配する」「時を支配する」「知を支配する」「ものを作る」の大きく五つの観点からの陳列を行なった。

「ものを作る」の大きく五つの観点からの陳列を行なった。都城の漆紙文書としては初めてのまとまった展示で、漆紙文書の空間的広がり、時間的広がりを味合わせるものとなった。

また、会場には赤外線テレビカメラ装置による漆紙文書の解読が体験できるコーナーも設置され、また今回新たに撮影した漆紙文書の調査風景のビデオも放映された。

なお、今回の展示に合わせて、カタログ(A4判一六頁。三〇〇円)も作成されている。飛鳥資料館にて販売中。